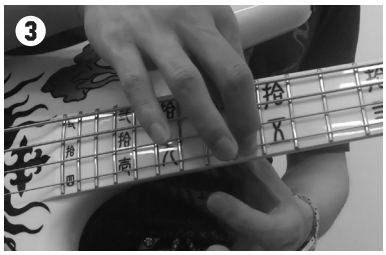
注意点1 右手&左手

右手と左手を交差させて指板を幅広く使おう

メイン・フレーズでは、トリッキーな大技“交差式ライト・ハンド”を使用する。この奏法は、その名のとおり、右手と左手を交差させながらタッピングをくり返すテクニックだ（**写真①～④**）。実際の流れは、タッピング・フレーズの途中で、右手が左手を跳び越えて低音部に移り、その直後に今度は左手が右手よりも低音部に移動し、再び右手が左手を跳び越える……という動作をくり返すことになる。このように1本の弦上で指板を高音部から低音部まで幅広く使うため、通常のライト・ハンド・フレーズよりも音域がかなり広くなるのだ。まずは右手と左手を交差させることに慣れるため、梅フレーズを使って基礎練習をしてみよう！

1小節目1&2拍目。タッピングした人差指は……

左手のプリング中に、16fに移動する。

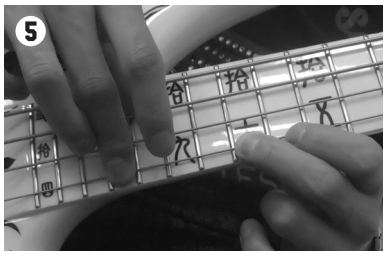

左手もプリングで右手に繋げたあと……

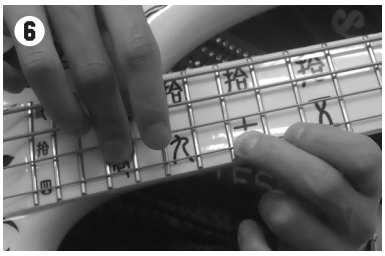
右手を跳び越えて、14fに移動する。

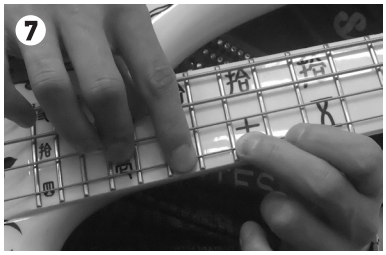
注意点2 右手

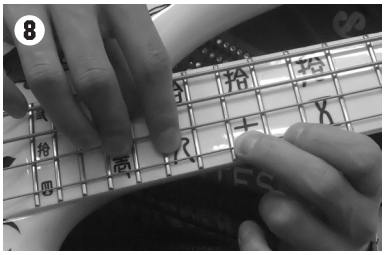
右手のトリルを活用する超絶ライト・ハンド奏法

ビリー・シーンに代表される高速ライト・ハンド奏法は、左手の**トリル【註】**の間に右手のタッピングを素早く入れるテクニックである。松フレーズは、これとは逆の発想になっていて、右手のトリルの間に左手（ルート音）を入れているのだ。この“トリル・ライト・ハンド”は、右手のハンマリング＆プリングのスピードがポイントとなるので、1弦19フレットを人差指、21フレットを中指でタッピングしながら、右指でもしっかりプリングを行なうように心掛けよう（**写真⑤～⑧**）。右手によるタッピング＆プリングをスピーディに演奏できるようになるためには、相当な練習が必要になる。覚悟を決めて、修行に励むべし！


1小節目1拍目。まずは中指で21fをタッピングし……


プリングを行なう。指を弦にしっかり引っ掛けよう。


続いて、人差指で19fを叩く。


人差指のプリングも発音が弱くならないように注意！

～コラム31～

将軍の戯れ言

超絶ベーシストを目指す者へ……著者・MASAKIからの提言

楽器演奏において、テクニックとは“感情表現をするための手段”である。喜怒哀楽という感情を音で表現するためには、“表情付け”というテクニックを修得していなければならない。つまり自分のプレイの中に“表情”がたくさんあれば、それだけ多くの気持ちを伝えることが可能になるのだ。本来リズム楽器であるベースが、ギター的なテクニックを使う必要があるのか？ということは常に問われている。しかし、考えてみてほしい。なぜロックが生まれたのか？　ロックは、既存の音楽のイメージを破壊することで誕生したのではないだろうか。多くのミュージシャンは、普通の生活はしたくない、人とは違うことがしたいと願って活動していると思う。しかし、いざ音楽を始めてみると、ベースをお決まりのポジション（リズム・プレイに徹するなど）へはめてしまう人が多いのだ。常識的なプレイからは、人を驚かすようなサウンドは決して生まれない。ほかのプレイヤーが行なわないような冒険をすることによって、新しいサウンドが生まれるのである。テクニカル・ベーシストを目指す諸君は、自信を持ってもらって構わない。着実に時代は動いている。君たちの個性が次世代の音楽シーンを作り上げるだろう。“テクニックは友達！”なのだ。

超絶ベーシストを目指す者は、常識に囚われてはならない。常に冒険心を持って活動せよ！

【トリル】ハンマリングとプリングを何度もくり返すテクニック。指をスピーディに動かすことが大切だが、ハンマリング音に比べてプリング音が小さくなりやすいので、指を弦にしっかり引っ掛けるように心掛けよう。